

令和 2 年 6 月 4 日現在

機関番号：14401  
 研究種目：若手研究(B)  
 研究期間：2014～2019  
 課題番号：26861886  
 研究課題名(和文) 仕事を持つ慢性心不全患者のライフスタイルに即した療養行動実施の看護援助指針の開発  
  
 研究課題名(英文) Development of nursing guideline for employees with heart failuer to integrate recuperation actions with their normal lifestyle patterns  
  
 研究代表者  
 山下 亮子 (Yamashita, Ryoko)  
  
 大阪大学・医学系研究科・招へい研究員  
  
 研究者番号：90646788  
 交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、仕事を持つ慢性心不全患者のライフスタイルに即した療養行動を支援するためのアセスメント視点および看護実践内容を明確化し、看護援助指針の開発を目的とした。仕事を持つ心不全患者の療養行動を実施する上での困難と対処の調査、および、慢性心不全看護認定看護師の看護実践内容の調査を統合し、指針を作成した。指針は、看護支援を実施するうえでの姿勢(仕事を継続する生き方や責任を全うできるために心不全を増悪させない等)、アセスメント内容(仕事継続の意味、職場や家庭内で担う役割や責任等)、ケア内容(仕事をしながらの自律的な療養生活支援、仕事が軸のライフスタイルの中に療養行動を落とし込む等)から構成された。

研究成果の学術的意義や社会的意義  
 仕事を持つ患者に特化した具体的なアセスメント内容・看護実践内容が明確化されることで、ジェネラリストの看護師が、仕事を継続しながら療養行動を実施する患者に対する情報収集・アセスメントの焦点、ライフスタイルに即した療養行動実施のための具体的な介入方法を理解できる。それによって、患者個別のライフスタイルに即した療養行動継続につながる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to clarify the detail of nursing assement and care that employees with heart failuer were able to integrate recuperation actions with their normal lifestyle patterns, and to develop the nurisng guide. The study was conducted by inrerviewing 1) 3 employees with heart failuer about difficulty and coping of recuperation actions, 2) 9 certified nurses in chronic heart failure nursing about nursing plactices. Integrating data from 2 interviews, we developed the nursing guide. Components of the nuring guide consisted were as follows: 1) nursing attitude (preventing exacerbation of heart failure to fulfill their work obligation, etc.); 2)nursing aseesment points (meaning of working, job duty, role in a family, etc.); 3) nursing cere points (supporting for self-directive recuperations with working, integrating recuperation actions with their lifestyle patterns and occupational routines, etc.).

研究分野：臨床看護学

キーワード：慢性心不全 就労者 セルフケア セルフマネジメント

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

## 1. 研究開始当初の背景

慢性心不全患者は、心不全の悪化を引き起こさないための療養行動として、症状モニタリング、塩分・水分制限、服薬、活動と安静のバランス調整、禁煙や節酒などの適切な実施を求められる。しかし、療養行動によって影響を受ける生活上の場面は多く、患者の多くは療養行動を生活に組み込んで継続することが難しい。特に仕事をもつ慢性心不全患者は、仕事をしていない患者と比べて療養行動を実施できていない(Dickson, 2008)。理由として、工作中トイレに行きにくく利尿剤を服用できない、仕事中心のライフスタイルのために外食が多く塩分制限が難しい、仕事での身体活動量が多く心負荷がかかるなどがあり(Dickson, 2008)、患者は仕事を継続しながらの療養行動実施に困難を抱えている。心不全を悪化させないために必要とされる療養行動を、患者が仕事を継続しながら実施するには、単に知識の提供だけではなく、患者の仕事内容や仕事に従事するうえでのライフスタイルを看護師が把握して、ライフスタイルに即した療養行動方法を見つけられるよう援助することが必要である。しかし、現状では、一般的な知識のみの情報提供や、患者の生活が考慮されずに実際的でない指導が実施されている傾向がある (Sinabani,2013)。また、慢性心不全患者の療養行動への看護介入に関する国内外の先行研究では、療養行動教育を目的とする看護面談、行動変容を目的とする介入プログラム、電話やインターネットによる遠隔モニタリング等の効果が認められているが、これらの介入では、患者がライフスタイルに即した方法で療養行動を実施するためのニーズアセスメントの方法・具体的看護実践内容は明らかにされていない。さらに、ほとんどの病院で心不全患者の療養行動支援を担うのは、専門的な療養支援技術を持つ慢性心不全認定看護師ではなくジェネラリストの看護師であるが、患者に個別指導を実施する看護師は、複雑な患者背景を捉えて援助の方向性を見出すことに困難を感じており(清水, 2005)、そのために患者はライフスタイルに即した療養行動を実施するための適切な看護支援を受けられず、心不全悪化を繰り返している。したがって、仕事を持つ患者に特化した具体的なアセスメント内容・看護実践内容の明確化が必要と考える。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、仕事を持つ慢性心不全患者がライフスタイルに即した療養行動を実施するための看護援助に必要なアセスメント視点と看護実践内容を明確化し、看護援助指針を開発することである。

## 3. 研究の方法

本研究では、研究 1 で仕事を持つ慢性心不全患者がライフスタイルに即した療養行動を実施するための看護援助に必要なアセスメント視点と看護実践内容の明確化を実施し、研究 2 で仕事を持つ慢性心不全患者のライフスタイルに即した療養行動実施の看護援助指針の作成と精錬を行う。

### 1)研究 1 .仕事を持つ慢性心不全患者がライフスタイルに即した療養行動を実施するための看護援助に必要なアセスメント視点と看護実践内容の明確化

#### (1) 仕事を持つ心不全患者が療養行動を実施するうえでの困難と対処のインタビュー調査

対象者：心不全症状の既往歴あるいは現症があり、A 大学病院に心不全症状の増悪で入院した 3 名の患者

データ収集方法・分析方法：半構造化質問から成るインタビューガイドに基づき 30 分～60 分程度の面接調査を 1 回実施。調査内容は、デモグラフィックデータ(心不全の病状や仕事内容)、仕事をしながら療養行動を実施するうえでの困難および対処(療養行動の実施

状況、実施に影響を及ぼす仕事内容およびライフスタイル、療養や仕事に対する価値観、療養行動を行う上での工夫や他者からのサポート)であり、質的帰納的分析を行った。

倫理的配慮:所属する機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施。対象者は主治医の承認を得て決定し、研究目的・意義、個人情報の保護等文書で説明のうえ書面同意が得られた者を対象とした。

(2)慢性心不全看護認定看護師(以下慢性心不全看護 CN)に対する、仕事を持つ心不全患者に療養行動支援する際のアセスメント視点・看護実践内容のインタビュー調査

対象者:慢性心不全看護 CN の資格を持ち、資格取得後に仕事を持つ心不全患者の看護の実践経験がある9名の看護師。対象者は、便宜的標本抽出法+ネットワーク式標本抽出法(スノーボール・サンプリング)で選定した。

データ収集方法・分析方法:半構造化質問から成るインタビューガイドに基づき面接調査を1回実施。調査内容は、仕事を持つ心不全患者の療養行動支援で大事にする視点、アセスメント内容、介入内容であり、質的帰納的分析を行った。

倫理的配慮:所属する機関の研究倫理審査委員会の承認を得て実施、研究目的意義・個人情報の保護等を文書で説明し書面同意を得た。

## 2)研究2.仕事を持つ慢性心不全患者のライフスタイルに即した療養行動実施の看護援助指針の作成と精練

研究1で実施する2つの調査結果を統合し、看護指針を作成した。作成した指針は、慢性心不全看護 CN および心不全セルフケアの看護研究者とともに内容妥当性を検討した。

## 4.研究成果

### 1)研究1.

(1)仕事を持つ心不全患者の療養行動を実施するうえでの困難と対処

結果:以下の表1、2に結果を示す

表1.仕事をしながら療養行動を実施するうえでの困難

困難の分類	カテゴリー
自分では調整不可能な仕事内容や職場の状況に起因する困難	気温調節できない職場環境なので飲水過多となる
	そもそも活動量が多い仕事内容なので心負荷を避けられない
	職場のマンパワー不足のために心負荷を軽減するための他者の助けを得られない
少ない体力で仕事と療養行動とを両立する心身の負担	仕事をしていること自体で疲労し、療養行動としての家事をする気力がなくなる
収入源を確保する困難	自分の心機能や経験で就ける仕事がない
	心負荷がかかる仕事でも収入を得るために辞められない

表2.仕事をしながら療養行動を実施するうえでの対処

対処の分類	カテゴリー
仕事の都合に合わせた範囲の心負荷軽減の工夫	仕事の都合に合わせて確実な療養行動実施の工夫をする
	体力がない体で仕事と家事とを両立できるよう家事負担軽減を工夫する
	心負荷に応じて休む
	心負荷がかかったとしても仕事の遂行を優先する
心機能に合わせた仕事のやり様への変更	全体の仕事量を心不全の体に見合うように減らす
	同日に仕事が集中しないよう仕事量を分散する
雇用継続の工夫	心疾患を前提とした障がい者枠利用による就職活動
他者のサポートの獲得	他者の力を借りて仕事の負担を軽減する

考察：仕事を持つ心不全患者の困難および対処の特徴と看護援助を検討した。第一に、困難や対処は仕事内容や職場環境に大きく影響を受けており、仕事内容による心負荷の高低、組織での役割による仕事内容調整の裁量の有無、職場の他者のサポートの有無を詳細にアセスメントする必要がある。第二に、体力が少ない体で仕事と家事とを両立せざるを得ない状況があり、ライフスタイル全体での心負荷総量を踏まえた心負荷軽減方法の検討が必要である。第三に、壮年期で自ら収入を確保せざるを得ない状況や家族を養う役割として対象を理解すること、ならびに、収入源確保の困難と対処に対する支援が必要である。

(2) 慢性心不全看護 CN の仕事を持つ心不全患者に療養行動支援する際のアセスメント視点・看護実践内容

結果：対象者の慢性心不全看護 CN 経験年数は平均 5.0 年 ( ± 1.6 )、認定取得後の仕事をしながら心不全療養を行う患者の看護実践事例数は、10 例未満：3 名、10～20 例：2 名、30～40 例：2 名、50～100 例：2 名だった。以下の表 1、2、3 に結果を示す。

表 1. 療養行動支援で大事にする視点

カテゴリー	サブカテゴリー
仕事を継続する生き方や責任を全うするために心不全を増悪させない療養行動支援が重要	仕事という生きがいを見失わないためにも仕事を継続する意思や生き方を尊重
	家庭内や職場で担う責任が大きい壮年期だからこそ心不全の増悪予防が大事
療養行動第一ではないというスタンス	療養行動を実施して当然とは考えない
	生活のメインは働くことだから必要最小限の療養行動に
	完璧を求めずに患者なりの行動変容を認める
療養生活の気軽な相談相手	療養上の希望や揺れ動く心のうちを気軽に話してもらえる関係性の重視

表 2. アセスメント内容

テーマ	カテゴリー	サブカテゴリー例
仕事継続の意味	職場や家庭内で担う役割や責任	家族を養い生計維持手段としての仕事の重要性、職場での役割や責任
	心不全を抱えながら仕事を継続したい意向の背景	仕事は生きがいという思い、病状悪化リスクを踏まえたライフスタイルの意向
仕事のあるライフスタイル全体の心負荷と心機能とのバランス	心機能	心不全ステージや検査データから捉えた心機能
	仕事による心身の負荷の程度	仕事内容、通勤や移動の負荷、気温、喫煙影響、勤務スケジュール
	仕事とプライベート両方による心負荷の程度	ライフスタイル全体での心負荷総量、予測される増悪要因
患者が持つ力	病状認識や療養行動の実施状況	病状・療養行動の認識、実行状況
	主体的な療養行動の実行可能性	疾患や療養行動の情報統合能力、症状出現時に早期受療行動できるか
	療養行動実施に影響しうる精神的傾向	精神的落ち込み状況・内容、心負荷リスクとなる仕事の取り組み方
利用可能な資源	仕事で生じる心負荷を軽減する具体的方策の実現可能性	職場の理解、配置転換・業務内容調整・休日取得の実現可能性、休暇中の給与保証有無
	療養行動実施の助けとなる家族や制度利用の状況	福祉制度利用状況、家族の病状認識・サポート状況、家族の負担感

表 3. ケア内容

テーマ	カテゴリー	サブカテゴリー例
仕事をしながらの自律的な療養生活を支援する	自己選択を支援する関係性を構築	求められる話題や情報を提供、患者の選択を支持する関係性の強調
	価値や意向を尊重した主体的な療養行動実施方法を検討	思いや価値を尊重した療養行動方法を探す、禁止でなく自己選択できる情報提供
	病状や仕事にまつわる患者の情緒を都度捉えて対応	心の揺れを予測して受け止める、心がかりを主治医と共有
仕事軸のライフスタイルの中に療養行動を落とし込む	心負荷がかかりすぎない業務内容や遂行方法を検討	負荷量を実際に確認し評価、心機能に見合った業務内容を多職種で検討
	仕事軸のライフスタイルでも実施しやすい療養行動実施方法を検討	ライフスタイルを想定した具体的な療養行動方法検討、取り入れやすいセルフモニタリング方法や電話モニタリング
	療養行動実施の負担感を減らす	病状や業務内容から必要な制約を見極める、療養行動実施のハードルが下がる方法を探す
職場や家族から療養行動支援を得られるよう働きかける	職場の理解を促す	病状変化リスクや配慮を要することを上司と話し合う
	家族が患者の療養行動を支援できるよう働きかける	心不全を抱えて働く心身の負担と療養行動支援の必要性を説明
療養行動実施を動機づける	自身の心臓の状態と療養行動の関係性の意味づけを促す	病態・療養行動の関連説明、心不全の軌跡から療養行動の意味づけ、増悪要因と一緒に検討
	忙しい生活の中での療養行動実施は困難であることを前提に自己効力感を高める	何かしら取り組めることを探す、できていることを評価する
	人生で価値を置くことの意識化を促す	長期的な人生の目標を話し合う、軌跡を意識しつつ人生をどう送りたいか考えることを促す

考察：看護実践内容の特徴として、慢性心不全看護 CN は、心不全増悪の回避自体を目的とはせず、患者が心不全を抱えて仕事を継続する生き方や責任を全うできるための自律的な療養生活を重視する一方で、仕事メインのライフスタイルを尊重した療養行動第一ではないスタンスも併せ持ちつつ支援していたことが明らかになった。

## 2) 研究 2 .

研究 1 で実施した 2 つの調査結果を統合し指針を作成した。患者調査結果を踏まえ、「経済的支援を受けられるように働きかける（例：ソーシャルワーカーと連携した医療費助成制度の活用）」をケア内容として追加し、指針を作成した。

## 3) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

国内外の先行研究では、仕事を持つ心不全患者がライフスタイルに即した方法で療養行動を実施するためのニーズアセスメント・ケア内容は明らかにされていない。本研究では、アセスメントとケアの具体的内容だけでなく、それらを導く前提となる療養行動支援で大事にする視点をも、国内外で初めて明示した。

## 4) 今後の展望

臨床の場で使用してもらいながらの指針の洗練化、指針を適用した事例の介入効果の評価が必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山下（関口） 亮子
2. 発表標題 仕事を持つ慢性心不全患者が療養行動を実施する上での困難と対処
3. 学会等名 第16回日本循環器看護学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山下（関口） 亮子
2. 発表標題 仕事を持つ心不全患者の療養行動支援における慢性心不全看護認定看護師の看護実践内容
3. 学会等名 第84回日本循環器学会学術集会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考